

なぜ踊る身体に 心奪われるのか？

—バレエ鑑賞から探る美と感動の科学—

白鳥 茉衣

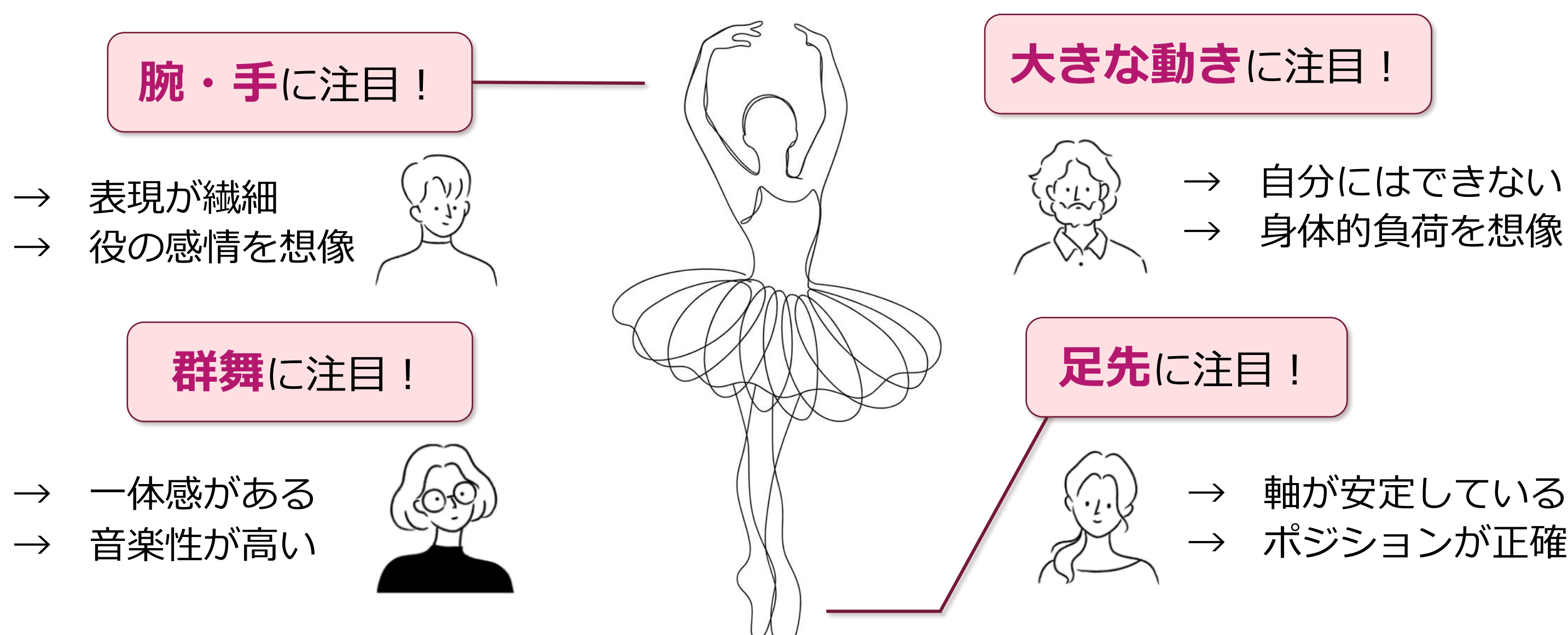
北海道大学 大学院文学院
心理学研究室



未来社会のあるべきかたち

- ◆ 誰もが「自分なりの美や感動」に出会える社会
- ◆ 芸術が、心身のウェルビーイングを支える社会
- ◆ 見え方・感じ方の違いを多様な価値として認め合う社会

あなたはダンサーのどこを見ていますか？



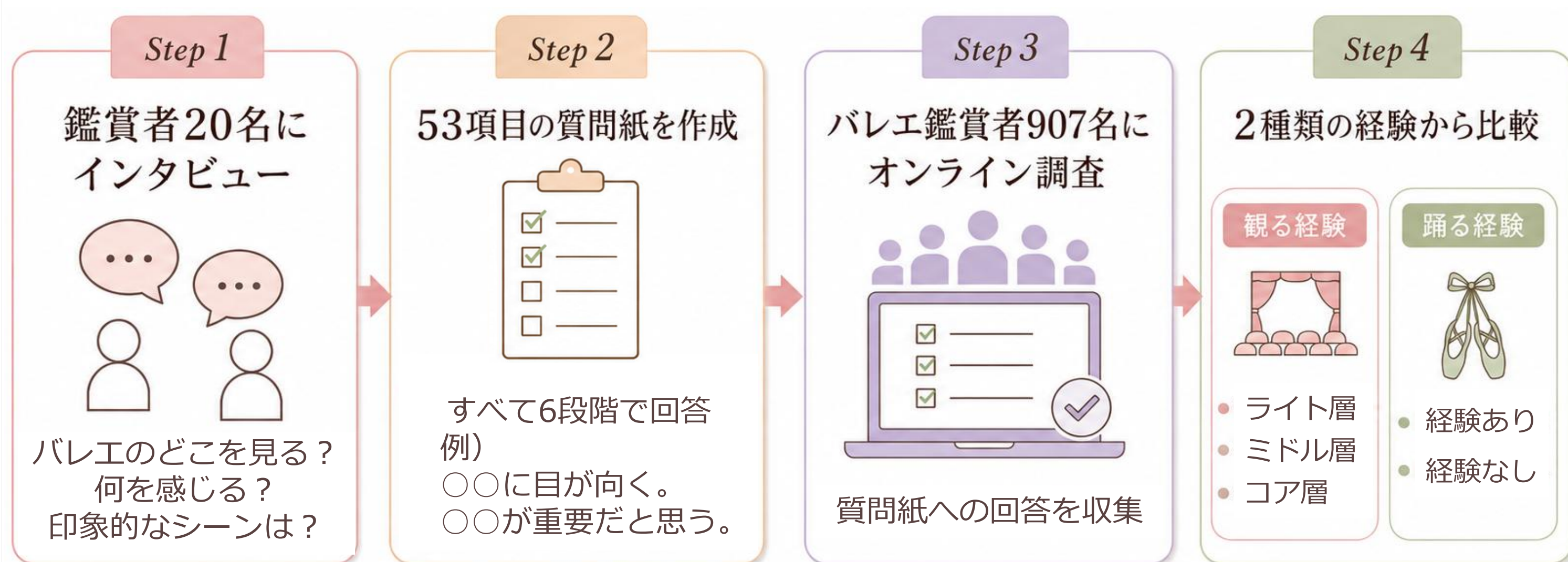
同じ踊りを見ても、注目する場所も、動きから受け取るものも人それぞれ

なぜこのように多様な鑑賞体験が生まれるのか？

本研究では、鑑賞者自身の「**専門性**」に着目

研究目的： バレエの見方・捉え方・感じ方に「**観る経験**」と「**踊る経験**」はどう関わるか？

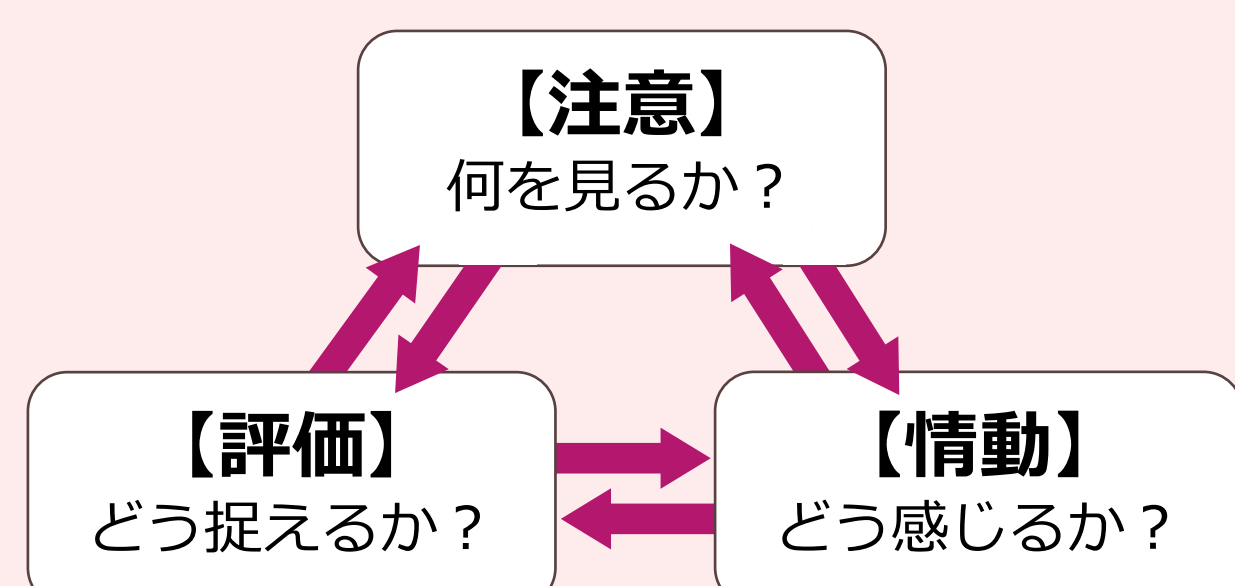
方法： 質的研究と量的研究を混合した4段階のフロー



結果： 踊らなくても、鑑賞は深められる！

発見1

鑑賞体験は**3つの動き**から構成



発見2

「観る経験」が多い人ほど

- より多くの動きに注意を向け、
- より多様な観点から動きを捉え、
- より強く情動的に反応していた

発見3

「踊る経験」は動きへの着眼点に関係

- 経験○：目立つ動き に注目
- 経験×：上半身・体幹 に注目

誰もが芸術鑑賞を楽しむには？

では、鑑賞経験の少ない人にも作品の面白さが届く「見方の手がかり」とは？

→ **ダンサーの身体運動 × 鑑賞者の視線 × 鑑賞者の情動** を、実際の鑑賞中に測定



→ どのような動きが、どのような見方を通して、美や感動へつながるのかを解明

初めて観る人にも、経験を重ねた人にも、鑑賞を深める手がかりを届けたい！